

分会情報

J R 東海労大阪仕業検査車両所分会
No.16 2010.9.6
発行責任者 柿本 克彦
編集責任者 教 宣 部

責任転嫁を絶対に許すな！！

8月25日、新横浜駅でB11編成12号車バンタグラフの動作がおかしいと申告があり、岡山支所で調査したところ、12号車のバンタグラフの天井管とコーベルワイヤ端子が接触していたのが発見されました。このB11編成は前日の24日に大仕両で仕業検査を行いベロー付バネの交換作業を行っています。

会社は、ベロー付バネの取り替え作業において、天井管とコーベルワイヤに均等な隙間を確認しなかったことが原因と言っています。

9月1日の総点呼の訓示で所長は、「車両のプロとして、部品の構造や動きなどを業務の合間で勉強しろ」と前置きし、コーベルワイヤの取り替え作業をした社員に対して日勤教育を指示して、その教育の中で『日頃車両について勉強しているか』『通信教育を取っていますか』と、今回の原因は社員の勉強不足が原因かのごとく責任転嫁をしてくれています。

さらに所長は業務の合間に勉強しろと言っていますが、現場で働く社員は日頃から業務の合間はもちろん休憩などに、仕業検査、申告作業で起きた事象や作業のやり方について話しをしたり勉強もしています。現場で働く社員の間でも天井管循環器部品の予備品が一つしかないので一編成にスリ板は二本あるので予備品をせめて2つ置いてくれたら作業も短縮できること等、管理者を交えて話しもしています。しかし管理者から帰ってきた返答は、「置場所がない」と一括し社員を落胆させています。このようなところにも管理者としての安全に対する意識の無さが表われているのではないのでしょうか？

また、ことさら社員の勉強不足だけを問題にしていますが、取り替え作業の訓練を指導した管理者の指導不足と勉強不足は問題ではないのでしょうか？

今回行われた訓練での説明では、「コーベルワイヤが天井管に接触したらパンタグラフの動作に不具合が起きたら」とか「奥を覗き込んで取り付け部の隙間確認をなさい」等々、社員に対して何ら説明はありませんでした。修繕車両所での取り替え訓練では、奥を覗き込んだ隙間確認やコーベルワイヤが天井管と接触すればパンタグラフの動作に不具合が生じるなどの説明もされたそうです。社員の勉強不足に責任を押し付け、指導する側の勉強不足を隠そうとする会社管理者、山崎科長が言った「聞かなかったでしょう」の言葉が管理者の勉強不足を隠そうとする表れでないのでしょうか？

J R 東海労は、指導者の勉強不足を隠し、全てを社員におしつける会社は許さない！！

何故、取り替え作業時に起きうる重要なポイントを説明しなかったのか求めると共に、指導者の勉強不足を隠そうとする会社管理者は絶対に許さない！！